

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年4月27日～2015年5月3日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年5月11日

在ジョージア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【南オセチア】

▼第54回IPRM会合(29日)

・参加者は行政境界線付近の状況を概観し、ホットラインを通じた活発な連絡を歓迎。共同議長を務める EUMM 団長と OSCE 特別代表は復活祭の時期に通過点が閉鎖されたことに対し遺憾を表明しつつ、拘束が起きなかったことを評価した。行方不明者、行政境界線付近の標識の毀損、フェンスなどの障害物の設置が住民にもたらしている問題などについて議論された。

2. 外 政

▼労働・保健・社会保障大臣がウクライナを訪問(27日ー28日)

・クヴィタシヴィリ・ウクライナ保健大臣と会談し、ウクライナに対する国際支援会議に出席。
・「ク」ウクライナ保健大臣との会談では人道支援の継続について協議された。「ク」ウクライナ保健大臣は、ジョージアはウクライナに対する人道支援のドナー上位5カ国に入るとして感謝を述べた。ジョージアは2014年9月に12トンの人道支援物資をウクライナに送り、紛争地域の児童110名をアナクリアに招待した。

▼サーカシヴィリ前大統領がバクーを訪問(28日ー30日)

・バクーで開かれたウクライナ情勢に関する大統領経験者の会議に「サ」前大統領が出席。ジョージア検察はアゼルバイジャンに対し「サ」前大統領の送還を要請したが、受け入れられなかった。

▼ジョージア・独首相の電話会談(29日)

・ガリバシヴィリ首相とメルケル独首相との電話会談が行われた。「ガ」首相によれば、会談の主な内容は地域情勢や最近のジョージアの改革の進展であった。「メ」独首相はジョージアの欧州との統合の追求に対する支持を改めて確認した。

▼オランダの国会議長がジョージアを訪問(29日ー5月1日)

・ブロケルス＝クノル蘭国会議長がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ウスバシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、ツルキアニ法相、グヴェネタゼ最高裁長官らと会談。外国の国会議長としてクタイシの国会を初めて訪問した。

・「ウ」国会議長との会談では、地域情勢、被占領地域の問題、ウクライナ紛争などについて議論。

▼菌浦外務大臣政務官のジョージア訪問(5月2日)

・菌浦外務大臣政務官がジョージアを訪問。ジャラガニア外務次官らと会談。両国の経済関係や国際機関における協力などについて議論。日本語での公式の国名呼称の変更に関し、ジョージア側から感謝が示された。
・外交旅券保持者に対する相互の査証免除について、ジョージア外務省で口上書の交換式が行われた。

3. 内 政

▼環境・天然資源保護大臣の辞任(28日)

・21日に地域発展インフラ大臣が辞任したのに続き、ホクリシヴィリ環境・天然資源保護大臣が家庭の事情を理由として辞表を提出。

▼スポーツ青年問題相の辞任(29日)

・キピアニ・スポーツ青年問題相が会見を開き辞任を発表。これまで国会のスポーツ青年問題委員会から批判を受けており、辞任がとりざたされていた。
・2014年7月に国会が内閣を信任して以降、7人目の大臣の交代となり、内閣は国会から新たに信任を受けねばならなくなった。

▼内閣の再信任プロセスに関する首相の会見(29日)

・キピアニ・スポーツ青年問題相の辞任を受けてガリバシヴィリ首相が記者会見を行なった。内閣の3分の1が交代することに伴い、政府が国会から改めて信任を受けねばならなくなったとして、新しい大臣を迎えるのは、環境・天然資源保護省とスポーツ青年問題省のみであると発言。また、EBRD年次総会、リガでのEU東方パートナーシップ首脳会議などが控えているため、政府に対する再信任をできる限り早く行なうよう大統領および国会に求めた。

▼首相が新しい内閣を発表(5月1日)

・ガリバシヴィリ首相が会見を開き、新内閣の大臣候補者を発表。29日の会見では新しい大臣2名を迎えると述べていたが、新しい大臣は3名。国防大臣にティナ・ヒダシェリ議員(国会欧州統合委員会委員長)、環境・天然資源保護大臣にギグラ・アグラシヴィリ議員(国会農業委員会委員長)、スポーツ青年問題大臣にタリエル・ヘチカシヴィリ氏が指名された。その他の大臣は留任。

・「ガ」首相はジャネリゼ現国防大臣に対し既に前職の国家安全保障・危機管理評議会書記に復帰するよう要請したと述べた。また、スジャシヴィリ現国家安全保障・危機管理評議会書記も前職の内務省情報分析局局長に復帰する。「ガ」首相は「ジャ」現国防大臣の交代の理由にこつ

いては何も述べなかった。

▼大統領が国会への内閣名簿提出を延期(5月1日)

・首相が新大臣 3 名を発表した後、マルグヴェラシヴィリ大統領が会見を開き、国会への新内閣名簿の提出まで、憲法上与えられている 1 週間の時間を置くと発表。「マ」大統領は、「数日間のうちに何人もの大臣が次々と交代し、ある大臣は辞任しないと述べてつも辞任した。2 名の大臣のみ交代するとされていたのに 3 名が交代する。このような状況を見ると、私には政府がいささか不可抗力的に機能しているような印象を受ける。大統領として私は、国防大臣がどれほど頻繁に交代しなければならないのかと問いたい。この困難な状況に鑑み、私は首相にも国会にも落ち着いて協議を行ってもらうべく、憲法上与えられた権限を行使し、新内閣の名簿への署名を 1 週間先延ばしにする」と述べた。

▼新国防相が統合参謀総長と会談(5月1日)

・首相の指名を受けたヒダシェリ新国防相がクタイシでカパナゼ統合参謀総長と会談。会談後、「ヒ」国防相は、「NATO 加盟という主要な目標ができる限り早く達成できると確信している。そのプロセスを早めるべくカパナゼ統合参謀総長と共にあらゆる努力を行なう」と述べた。

4. 経 済

▼国立銀行が4千万米ドルを売却(28日)

・ラリアンが進行し、28 日、ラリの為替レートが 1999 年 3 月以来の水準となる 1 米ドル=2.3087 ラリをつけた。同日、ジョージア国立銀行は市場で 4 千万米ドルを売却。外貨市場への介入は今年 5 度目となる。これまで計 5 億米ドルを売却した。

・5 月 1 日には 1 米ドル=2.3327 ラリをつけた

▼2015年3月のGDP成長率(30日)

・国家統計局が速報値を発表。2015 年 3 月の実質 GDP 成長率は前年同期比 4.3%。2015 年第 1 四半期の実質 GDP 成長率の平均は前年同期比 3.2%。

▼2014年の国勢調査の速報結果(30日)

・国家統計局が 2014 年 11 月に行なわれた国勢調査の速報結果を発表。人口は 3,729,635 人。前回 2002 年の国勢調査時の人口 4,371,535 人に比べ 14.7%減。2002 年の調査とは異なり、2014 年の調査はアブハジアおよび南オセチ

アでは行なわれていない。

・都市部の人口は 2,140,126 人 (前回より 6.3%減)。農村部の人口は 1,589,509 人 (前回より 23.8%減)。

・地方別で人口の減少が最も顕著なのはラチャ・レチフミ・クヴェモ=スヴァネティ地方で 2002 年より 37.4%減。次いでサメグレロ・ゼモ=スヴァネティ地方で 29.0%減。首都を除き、人口の減少が最も少ないのはアチャラ地方で 10.6%減。

・トビリシ市の人口は 1,118,035 人。2002 年より 3.4%増 (トビリシ市の範囲が拡大された影響が大きい)。国全体の人口に占めるトビリシ市の人口の割合は 5.2%増えて 30.0%となった。

・国勢調査の詳細な結果は 2016 年 4 月に発表される。

▼欧州投資銀行の南コーカサス地域事務所がトビリシに開設される(30日)

・欧州投資銀行 (EIB) はトビリシに南コーカサス地域事務所を開設。開所式に参加したモルテラー EIB 副総裁は、事務所が担当するアゼルバイジャン、アルメニア、ジョージアは「欧州にとって戦略的に重要である」と述べた。また、「南コーカサス地域、特にジョージアにおいて、再生エネルギー、省エネ、中小企業支援、農業への投資支援において多くの可能性があると考えている」と述べた。

・EIB によれば、過去 5 年間の南コーカサス地域に対する融資は 726 百万ユーロに達しており、その約 7 割がジョージア向け。

・同 30 日、ジョージア銀行 (Bank of Georgia) と EIB とは、中小企業支援のための 40 百万ユーロの融資に関する合意に署名した。

▼2015年1月～4月の入国者数(5月1日)

・内務省の発表した資料によれば、2015 年 4 月の入国者数は 394,634 人で前年同月比 0.4%減。入国元別では多い順にトルコ (前年同月比 1.7%減)、アゼルバイジャン (同 8%増)、アルメニア (同 1.3%減)、ロシア (同 0.7%減)、ウクライナ (同 17%減)。リトアニア (同 67%増)、ドイツ (同 42%増)、ウズベキスタン (同 101%増)、ベラルーシ (同 37%増)、カザフスタン (同 29%増)、アラブ首長国連邦 (同 540%増) などのからの入国者数が著しく増加。

・2015 年 1 月～4 月の入国者数は 1,381,000 人で前年同期比 1.6%減。うち旅行者 491,378 人 (前年同期比 6%減)。